



# 麻布幼稚園だより

令和4年11月号  
港区立麻布幼稚園  
園長 酒井 正美

先日のスポーツデーでは、ご参観、ご参加をありがとうございます。日常的にも使用させていただいている麻布小学校の広い校庭をお借りして、子供たちがのびのびと活動する姿を見ていただくことができました。

保護者の皆様からは、「スポーツデーをととても楽しみにしていて、家でも何度もダンスをしていました。」「いきいきと自分らしく、表現しているのが印象的でした。」「一つ一つの競技に一生懸命に取り組む姿にととても感動しました。」「真剣な表情、友達を応援する姿が素敵でした。」などの感想をいただきました。

麻布幼稚園では、この「楽しんで」「夢中になって」という姿をととても大切にしています。

幼児が「やってみたい」「楽しい」「もっとやりたい」と思い、自発的な遊びとしてする中に、多様な体の動き（身体諸機能の発達）、自分の頭で考える力（主体的で深い学び）、他者と共同して学ぶ力（対話的で深い学び）が実現されています。自発的な遊びでは、「これをします」「このようにします」などと内容ややり方が決まっていな中で、自分の目的に向けてあれこれと試行錯誤をし実現をしていきます。この過程で、多様な動きを繰り返し体を動かすことで体力や身体諸機能が発達します。自分の頭で考える経験を豊かにすることで考える力が育まれます。友達や先生と取り組むことで人との関わりを学びます。乳幼児期は、文字や計算などの知識を教え込むと吸収し、「すごくてできる」ようになります。しかし、教え込まれ吸収することが、他人からの評価や報酬といった目的に代わると、その達成のためにやらされている感覚が生じてしまいます。やらされている感覚が強くなると自発的な動機が失われ、自発的に行動したいという子供本来の欲求が減り、好奇心ややる気を失ってしまいます。また、細部にわたり干渉したり先回りをしてしまい過ぎるのも、自発的な行動を奪ってしまうことにつながります。私たち大人は、「すごくてできる」ことで評価したり、「何でもしてあげる」過干渉をしてしまったりすることは、育ちつつある子供たちにとっての障害となることを知らなくてはなりません。

のびのびと安心して挑戦することを見守り、自分で考え行動する時間を保障し、失敗することを大人が恐れずに、子供が自発的な体験を通して学ぶ、豊かな生活を支えていきたいものです。

11月は本格的な寒さの前に、戸外での活動を工夫し体を動かす遊びをたくさんしていきたいと思います。この時期ならではの、木の実や落ち葉といった自然物を遊びや生活に取り入れ、十分に関わっていきたいと思います。

（柿の実を収穫）



（バルーンを使って）

